

## 小・中連携の家庭教育学級

奄美市立住用中学校

校長

瀬戸口

良一

## ■はじめに

本校のある住用は、奄美本島のちょうど中部、名瀬と古仁屋を結ぶ

国道58号線のほぼ中間に位置し、国道からは雄大なマンガローブの森と穏やかな海が望めます。夏はマンゴー、冬は甘くて高品質なタンカンが収穫されます。住用中は生徒数14人、PTA戸数13戸（住用小は児童22人、PTA戸数14戸）の極小規模校ですが、全校生徒が「好学・自律・根性・共同」の校訓のもと「輝けさわやかに」風は住用中から「をキャッチフレーズ

に、毎日の学習や課外活動等に励んでいます。

## ■大きな課題

校区内には、上役勝・中役勝・下役勝、山間・戸玉、西仲間・石原の七つの集落があります。しかし、中学生がいるのは、山間と西仲間の二つの集落だけという状況です。平成22年度の水害の影響による転出が原因として考えられ、P戸数も減少しました。児童・生徒数・P戸数の減少は、PTA活動や家庭教育学級を運営する上でも大きな課題となっています。

## ■合同運営の

## 家庭教育学級

本学級は、全保護者・

児童・生徒・学校職員を対象としています。小・中合わせても保護者は38人しかいないこともあり、子育てに関して一人でも多くの保護者が情報共有し、子どもたちを全員で見守っていくことができるよさがあると考えているからです。

企画の時点ではより多くのアイデアが出せること、家庭教育学級での学習では、たくさんの人と学習することで、様々な角度から意見が出されたり、視野が広がったりするよさがあります。

合同開催により、子ども

もだけを家において家を空ける回数が少なくて済むので、子どもと過ごす時間が確保でき、学習機会が保障されるというメリットもあります。小中が隔年で交互に企画を担当し、業務の効率化もできました。昨年のテーマは、「ありのままのあなたで参加し、みんなを！」でした。親子参加型の「夏休み大作戦」、

地区、市の体育祭に向けた母親と女性職員対象の

マ스ゲーム練習、人権同和教育研修会への参加

クリスマスコンサート、

「奄美大島の祭祀八月踊りと掛け唄の解釈」と題する講話、奄美市まなびフェスタへの参加、振り返りの会を開催しました。

## ■取組の成果と課題

親子参加型の学習は楽しく、参加率も高く、家庭での話題が広がり、学習後も親子で継続して活動ができました。人権同和教育研修会や小・中合同PTA研修会での講話は日常の子育てにつながる興味深い内容でした。

## ■課題と解決策

「課題」講話による学習のときの参加率が低い  
「解決策」①大人だけが出席する学習では子どもの預かりの態勢づくりをする。②広報の工夫と学習の目的を事前に知らせる。③講師の発掘や家庭教育学級支援員の活用を図る。

今後小・中学校が連携し家庭教育学級の充実

に努めたいと思います。



家庭教育学級のひとコマ。人権同和教育研修会